

南の風

- ・巻頭言
- ・夏休み自由課題作品スナップ
- ・9月の予定



遠足実施の判断

校長 若狭 陽一

夏休みが明け、学校再開となりましたが、例年以上の猛暑となりました。先日、メールにて登下校の安全のため、これまで積極的に認めてはこなかった熱中症対策グッズ等も参考として示させていただきました。各ご家庭でも様々なお考えがあると思いますが、ご理解をよろしくお願いいたします。

さて、猛暑が心配される中、9月15日に全校遠足が予定されています。保護者の皆様も心配されていることでしょう。安全のため、距離も昨年度より2.6Km縮めました。夏休み中も職員全員でコースの下見を行い、安全を検討したところです。年度当初、実施の有無についての判断は、「荒天」が大きな要素でした。しかし、新たに「猛暑」も要素として加わりました。そこで、当日の朝のみの判断とせず、2段階の判断日を設定しました。

○第1段階・・・9月1日

- ・9月1日以降の2週間予報で、気温が30℃を下回りそうである→第2段階へ
- ・9月1日以降の2週間予報で、気温が30℃を下回りそうもない→延期へ（10月以降を検討中）

<熱中症予防運動指針より>

- ・暑さ指数3.1以上・・・運動は原則禁止
- ・暑さ指数2.8～3.1・・・厳重警戒（激しい運動や持久走は避ける）
- ・暑さ指数2.5～2.8・・・警戒（積極的に休息をとり、水分塩分を補給）

この時点で延期の場合、当日と予備日の2回分の給食を復帰させます。給食復帰となればご家庭の負担軽減になると考えました。給食の準備の関係上、復帰の期限が、9月1日となります。

さらに、気温30℃の根拠ですが、「熱さ指数（WBGT）※単位は℃です。気温と紛らわしいので、本稿では単位を省きます。」との関係からです。現在、当校の教育活動は、日本体育協会が作成した「熱中症予防運動指針」に従っています。「暑さ指数」は気温と湿度と輻射（ふくしゃ）熱から導き出されます。そして、一般的に「暑さ指数」2.8を境に熱中症患者発生率が急増するとされています。「暑さ指数」の長期予報がないため、今回は気温の長期予報を活用することとしました。気温30℃以下になると「暑さ指数」2.8以下になることが多いとされているからです。

○第2段階・・・当日の朝（前日の場合もあり）

- ・「暑さ指数」が2.8以下であり、荒天の心配がない→実施

最後に、以下のような言葉を紹介します。文部科学省 元総合教育政策局長の言葉です。

「正しいこと」を言うのは、それほど難しくない。そして「正しいこと」と「間違っただけ」の択一なら誰も苦労しない。だが、多くの場合起きるのは「正しいこと」同士のせめぎ合いであり、求められるのは、その中での調整だ。

今回は、「遠足を行って児童の体力や気力を養い、豊かな心を育む」と「遠足を行わずに児童の安全を担保する」とのせめぎ合いになります。学校の教育活動ではこのようなせめぎ合いがしばしば起こります。学校に求められるのは、この調整をいかにうまくやるかだと考えています。

裏面に続きます